

令和4年度第2回行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

令和4年8月25日（木）13：30～15：00

2 開催場所

花巻市生涯学園都市会館3階 第3学習室

3 出席者

（1）委員5名

影山一男委員（部会長）、細川祥委員、阿部久美子委員、安部修司委員、
菊池房江委員

（2）説明者（施策関係部、施策主管課）2名

商工観光部：伊藤昌俊部長

観光課：藤井淳課長

（3）事務局（施策及び事務事業担当課）

財政課財務経営係：阿部ゆうみ主査

秘書政策課企画調整係：菊池遼主査

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「観光の魅力向上」について評価を行った。

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（2）委員会の評価結果の集約

5 議事録

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（菊池房江委員）花巻温泉郷等の宿泊客向けにPRすることを目的としたパンフレットなどは現在どのように配布がなされているものか。

（藤井淳観光課長）市から花巻観光協会に依頼し、PRパンフレットを作成している。作成したパンフレットは各温泉に配布・設置しており、なくなり次第、観光協会に取りに来てもらい、常に配布可能な状態としている。

（菊池房江委員）例えば、温泉宿泊客に対し大迫・石鳥谷・東和の観光資源を巡ってもらえるような移動手段や観光ルートを提案できるパンフレットを配布することで、更なる観光客誘致につなげられるのではと考える。思い出づくりとして家族旅行等の

団体観光客が増えてきていると思う。観光バス事業者も疲弊している中、他市町村の観光地を巡るバスなどを大型連休等に運行して観光の目玉をつくり、観光客誘致と観光バス事業者の救済を図ることなど考えられたらよいなと思った。

(藤井淳観光課長) 文化タクシーにおいて所有しているどんぐりとやまねこ号というレトロ・ジャンボタクシーがある。花巻温泉郷から新花巻駅や花巻駅までは距離があるので、市内の観光施設をぐるっと回るツアーを組み込んだタクシー運行をしている。利用者からFAXやハガキによるアンケートを集めていて、例えばわんこそば体験を盛り込んでほしいという要望に応えるなど改善を図りながらの運用をしていると伺っている。以前、大迫町の宿場の雛祭りの実施に合わせて、このタクシーの名称を雛祭り号と改めて行き先に会場を加えるなども行っていた。今年度は花巻観光協会による観光客の誘致としてこのどんぐりとやまねこ号を核に市内の観光資源を巡るツアーを月替わりで独自に企画している。マルカン周辺を巡ったり、大谷翔平選手や菊池雄星選手にゆかりのある野球関係のスポットを巡ったりなど年に10回程度企画している。

(菊池房江委員) そのツアーの申込みはどこで行うものか。

(藤井淳観光課長) 花巻観光協会で旅行業の資格を取得しており、旅行商品として販売しているため、花巻観光協会へ直接申込みこととなる。パソコンやスマホで花巻観光協会のホームページから申込みができるほか、電話連絡などでも申込みができる。

(伊藤昌俊商工観光部長) どんぐりとやまねこ号は前からあるもので、例えば半日コースや1日コース、大迫方面をめぐるコースなど様々なリクエストに応じて運行してきた。

観光協会は花巻駅や新花巻駅に観光案内所を設けているのでそこでも花巻観光協会同様に申し込みや窓口相談が可能である。

(影山一男部会長) 前年度評価時の今後の方向性に列記されている内容と反映状況に列記されている内容との対応関係がバラバラであると見受けられる。

例えば、誘客に関しては教育旅行のほか、家族旅行や個人旅行、外国人旅行などの誘客など様々な対象がある中、特に教育旅行が落ち込んでいるからそこに焦点をあてるべく、今後の方向性に書かれているのだと思う。一方、反映状況には外国人観光客の話や東北ディスティネーションキャンペーンなど家族旅行の話も出てくるなど、対応関係がわかりづらくなってしまっている。今後の方向性の欄において中点のひとつめで記載した内容については、反映状況も同様に中点のひとつめで記載するのが望ましいのでは。一応、順番はずれているが、方向性に対し反映状況の記載は十分なされているという理解でよいか。交流会館の修繕計画については、反映状況に記載がないが特に計画がなかったということであろうか。

(藤井淳観光課長) 交流会館の修繕計画については、大幅な修繕が必要かどうか市内

でも議論となった。しっかり修繕するならば高額な費用がかかることが分かり、当初大規模改修を想定していたが、徐々に修繕を行う一部修繕とすることとした。小規模修繕での対応となったため、計画を作成する必要性がなくなったため、記載出来なかった経緯がある。

(影山一男部会長) 事務事業評価シートに事業執行なしとなった経緯について記載があり、このことについて反映状況に記載となるのかなと思った。中点の表記についても番号とするなど対応関係が分かるように記載してもらえば、我々も読み取りがしやすいのでは考える。要因についてはコロナの影響もあり仕方ない面が多い。私としてはよくやっていると思う。他の委員の意見も伺いたい。

(安部修司委員) 教育旅行の誘致に力を入れて取り組んでいるという中で、SDG s に結びついた体験コンテンツが取り挙げられているが、具体的には何が想定されるものか。

(藤井淳観光課長) 花巻観光協会と観光課でSDG s に関するパンフレットを作成すると説明をしたが、旅行会社に、教育旅行誘致の際にどのようなパンフレットを作れば効果的なのか企画の段階から相談しているところ。現在想定しているのは宮沢賢治関連がひとつ。あとは、屋外での体験ということで北上川フィールドライフクラブが実施する体験事業など。SDG s の各項目にもともとあるコンテンツをいかに紐づけるかについて旅行者に整理してもらっているという段階である。実は一度観光協会でSDG s に関するパンフレットを手作りして商談会に臨んだが伝わらなかった経緯があり、旅行者が作成していたものが分かりやすかったことから、伝わりやすさを重視して作成委託することとなった。

(安部修司委員) 学校側からSDG s に関連したコンテンツを要望する声が挙がっているものか。

(藤井淳観光課長) 教育旅行を行うかどうかは学校教員が決めるが、実際旅行実施の際は旅行会社が行うこととなるので、商談では学校側と旅行者の両者にPRを行っているが、旅行実施を決定する学校側にPRする際に好印象となるような素材を旅行者に選択してもらい、パンフレットを作成してもらおうというもの。他の自治体で既に完成度の高いものが作成されており、当市でも同様に作成してもらおうよう進めているところ。

(伊藤昌俊商工観光部長) 決して新たにコンテンツを作ってもらうのではなく、もともと花巻市にあるコンテンツをどのように見せればSDG s に貢献しているとできるかという整理をお願いしている。例えば東北食べる通信の購読者である都会の方が同通信に掲載されている生産者さんを訪ねてくるといった体験機会をつくることも何かしらSDG s の項目に紐づくと思うが、それをどう伝えていくかが課題。昨年度はうまく伝えることができなかったことから、今年度は業者をお願いしているものである。

(細川祥委員) S L 銀河が来年6月で運行終了となるが、その理由は何か。

(藤井淳観光課長) S L 銀河は機関車が先頭車両にあるが、釜石から花巻まで向かう際の傾斜が厳しく、機関車の動力のみでは客車を曳いて登り切ることができない。実は客車は動力付きのもので、そのおかげで傾斜を登り運行できている。客車ももともとは北海道で運行していた古い客車を S L 銀河のために改造し活用しているもの。古い車両であるため、車検の際に必要な部材が調達できず更新ができないという状況であるようだ。このため、S L 銀河は来年6月で運行を終了することとなった。なお、新しい客車を作るためにはかなりの費用が生じるため、都内の旅行業で出た利益を地方の路線のこのような事業に充てていた状況にあるそうだが、コロナ禍の中、成り立たなくなってきた面もあり断念されたようだ。

(細川祥委員) 交渉の余地はないという判断を市としてもされているということか。

(伊藤昌俊商工観光部長) 2つ理由はあって、ひとつは、S L は前にしか進めないというもの、もうひとつは力が弱いというもの。力が弱いという点は今課長が申し上げたとおりで、釜石からくる際に動力がついた客車がないと、ディーゼル動力だけでは傾斜を登ってくることができない。J R 北海道で改造しエンジンを付けた客車そのものをもらってきて S L と協調運転と呼ばれるアクセルやブレーキを協調させる改造をさらに施して使っていた。

(細川祥委員) 仕組みについては J R から聞き及んでいた。S L 銀河運行終了にはコロナ禍の状況もあり、路線当たりの乗降客人数も影響しているだろうか。

(伊藤昌俊商工観光部長) それはまた別の話であり、J R として S L 銀河は今までも決して黒字ではなく、収益はさておき地域振興のためとしてこれまで取り組んできたという。現状として新たな車両を作る費用を出して取り組む方針はないというものと伺っている。

(影山一男部会長) S L 銀河については施策評価シートの各項目で検討するとしている。これは非常に悩まれているのだと思う。活性化委員会で議論がなされていくものだと思うが、活性化案を公募するなどの考えはないものか。

(伊藤昌俊商工観光部長) J R さんがキャラクター活用やラグジュアリー路線を狙った企画列車という企画を行っている。そういうものの中で、釜石線でこれをやりましょうというときは J R の提案がおそらく一番となる。それに対し我々はそれを周知したりセールスしたりということを検討するというもの。J R の運行自体をこちらでコントロールすることはできないものと考えます。

(影山一男部会長) それでは J R において代替案があるということか。

(伊藤昌俊商工観光部長) 代替案について今後出てくるのを期待するという現状である。

(藤井淳観光課長) 釜石線沿線広域エリア活性化委員会とは市町村レベルの会議であるが、岩手県としてもいろいろ考えるべきではないかと6月県議会の一般質問にあったようで、県も含めて連携して検討していこうという動きがある。昨年11月頃に S L 銀

河が終了するという話が出てすぐに県が主催して沿線関係市町村の課長クラスを呼んでいただき、JRから説明をしてもらう機会を設けてもらった。施策評価へは市単位の状況を記載しているが、県にも協力をいただけていること、JRからも企画列車等の提案も検討すると発言があったことを受けて、少しでも沿線自治体でこの企画をPRできればと考えている。

（影山部会長）施策評価シートの内容だけでは、SL銀河運行やそれに類するものもなくなってしまうのではという印象を受ける。前向きな検討がされているのであればそのことも盛り込んでおいてはどうか。

（阿部久美子委員）温泉は花巻の大きな観光資源であるが、今後は大きなハード整備を見込めないとすると、ソフト面の整備が必要と考える。豊かな自然や宮沢賢治などはその代表と思うが、最近であれば大谷翔平選手、菊池雄星選手などのメジャーリーガーを輩出した花巻東高校があるという、世界に通用する人材を育成する土壌を有するという点を前面に押し出し、教育旅行やインバウンド誘致に活かしていけないかと考える。また、JRの話題が出ているが、花巻駅の離発着の際に流れるメロディがないことを寂しく思っており、観光協会からもJRにアプローチをしているがなかなか実現せず、市からもお願いすることはできないかなどと考えていた。観光地としてPRしている花巻の駅にそのようなメロディを備えることができれば観光客誘致につながるのではないか。

（藤井淳観光課長）花巻温泉郷観光推進協議会から花巻東高校へモニュメントを寄贈いただいた。これは以前までは宮沢賢治記念館はどこですかという問い合わせが多かったが、近年は菊池、大谷両選手の活躍により、花巻東高校はどこですかという問い合わせが多くなってきた。その経緯を受けて花巻温泉郷観光推進協議会が花巻東高校に協力を依頼し作製したものとのこと。また、新花巻駅には市で花巻市出身のプロ野球に関する展示を行っており、菊池雄星選手のグッズもいくつか展示している。

（阿部久美子委員）モニュメントは少し場所が分かりにくいところにある認識ではあるが、ぜひ花巻の観光コンテンツとして前面に出して観光客の誘致に結んでもらいたい。

（藤井淳観光課長）花巻東高校野球部の練習風景が見えるようにとあの位置にしたようだ。市としても花巻東高校正門前の市が管理する駐車場から案内看板を設けるなど導線には配慮をしている。離発着時のメロディについては、JRに聞き取りしたところ、市からのお願いだけでなく、地域としての盛り上がりがないと具体的な動きをとることは難しいとのこと。

（阿部久美子委員）盛り上がりとは例えば観光協会のほかに商工会議所や青年会議所などが集まり要望書などを作ればよいということであるか。

（伊藤昌俊商工観光部長）要望書をつくるかというのは相談が必要だと思う。奥州市や一関市でも市が音頭を取って進めたものではないと認識している。

(安部修司委員) 水沢江刺駅のメロディの件については、江刺の青年会議所の方にお話しを伺ったところ、青年会議所も加わって商工団体、観光団体等で協議会を作って協議を重ねたとのことである。そのような形で、地元で盛り上がりを見せるというのも一つの手段ではないか。

(藤井淳観光課長) もともとこの曲がいいという地元の団体の動きがあり、さらにやりたいという原動力や芸能人の存在があって実現したものだとしてJRから伺っている。市からや協会からではない何かしらの団体を立ち上げつつ、どんな曲がつかわれるかについて協議を重ね、その結果をJRに相談して認証されるという流れと聞いている。

(影山一男部会長) 花巻は温泉郷や偉人をはじめとした魅力ある観光コンテンツはたくさんあり、恵まれているまちであるといえる。その中で、近年観光客が減っているのは恐らくコロナの影響であると考えられるため、市の政策は大きく間違っていないのではないかと考える。そのため、今後はアフターコロナに向けてしっかり政策を進めてもらえればいいのではないか。例えば観光客が集中して駐車場があふれて不便になってしまう状況をどうするかなど。

(影山一男部会長) 他にございませんでしょうか。なければここでヒアリングおよび質疑応答を終了とします。

(2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

①「前年度の振り返り」の「反映状況」について

(細川祥委員) 振り返りと反映状況の記載について対応関係にない箇所があり分りにくい印象を受ける。また、反映状況には令和3年度の状況である東北ディステーションキャンペーンによる特別企画の中止の表記に止め、令和4年度に再度実施するために予算確保をしたなどは、今後の方向性に記載する内容ではないかと思う。

(影山一男部会長) 担当者はすべて内容が頭に入っているため、それぞれの項目の結びつきをすぐにとらえることができるが、我々は記載内容を読むだけでは必ずしもその対応関係を明確に読み取れないので、記載の仕方は分かりやすく整理するべきである。

②「成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

(影山一男部会長) 的確に行われていると思うが、何か意見はないか。

<他委員異議なし>

③「施策を構成する事務事業の検証」について

(影山一男部会長) 構成する事務事業の検証については「施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか」という項目に対し、記載されている事業

について「開催方法を検証する必要がある」や「検討を進める必要がある」という表記ではなく、検証の結果新たな施策が必要であるなどとなるものではないか。

また、「新たに取り組むべき事業はないか」という項目においても、県外からの誘客を増やす取り組みが重要というのはそのような事業が元からあるのかわからない表現であると感じた。

(菊池遼秘書政策課主査) さらに成果の向上を図る事業はないかという項目では、施策を構成する事務事業一覧に掲載されている事務事業のうち、成果指標がC判定になっているものについて少なくとも検証するように評価している。低い成果となったものを向上させるためにはどのようなことが考えられるかについて触れられているもの。また、新たに取り組むべき事業はないかという項目には施策の成果を向上させるために既存事業のほかに必要な事業があれば検証を行う項目となっている。なお、文章の表現について疑問があるものは、施策評価検証シートで検証していただきたい。

(影山一男部会長) 検証、検討を進めることで成果の向上を図ることか。理解した。

(細川祥委員) 表現の方法については、分かりやすいよう吟味する必要があると思う。

(影山一男部会長) 開催方法の検証を行うことで成果が向上する。とまで記載してもいいのかもしれない。その他は的確に検証が行われていると思います。

④「施策の総合的な評価」について

(影山一男部会長) 的確に検証が行われていると思う。何か意見はないか。

<他委員異議なし>

⑤シート記載内容全般について

(阿部久美子委員) 施策を構成する事務事業一覧のうち、成果の項目において判定がない箇所はどのような意味を持つか。

(菊池遼秘書政策課主査) 事務事業評価において成果指標が定められていない、または事業執行がないなどの理由で成果指標の達成度が判定できていないものを指している。

(阿部久美子委員) 東北ディスティネーションキャンペーン推進事業の活動実績にはイベントが中止になった旨の表記があるが成果はC判定である。これはどうか。

(菊池遼秘書政策課主査) 本事業について予算執行がなされたものであり、成果指標の目標値より低い実績であったためC判定として掲載されているものである。

(影山一男部会長) それでは本日の部会はこれにて終了いたします。